



モーサテ

# WBS30年、モーサテ20年ずっと経済。

テレビ東京を代表する2つの経済ニュースがパワーアップ



報道局 ニュースセンター  
プロデューサー  
二村 智子

1993年入社。営業局を経て、1998年に報道局  
ニュース報道部へ異動。2008年から約3年間、  
ニューヨーク支局に勤務する。2018年より「News  
モーニングサテライト」のプロデューサーを務める。



## 海外の動きをどこよりも早く伝え 世界経済の未来を読み解く

モーサテ (News モーニングサテライト) は、ニューヨークをはじめとする世界経済の“今”を伝え、そこから世界経済の未来を読み解くことを番組づくりのコンセプトに掲げています。民放では規模が一番大きいニューヨーク支局から、毎朝のニュースや株価の見通しを、専門家を交えてお伝えしているところが、他局にはないモーサテの強み。株式を中心に、為替、債券、商品など、経済全般を網羅しており、番組を見れば世界の動きがどこよりも早くわかるように内容を構成しています。

また東京のスタジオでは、専門家による海外市場の見立てをはじめ、海外のニュースで一番ホットなトピックスも紹介。国内で発表された新技術や新製品に関

しても、それを紹介するだけでなく、どういう未来につながるかまでを分析し、視聴者の皆さんの、投資やビジネスに役立つ情報をわかりやすくお届けしています。

この20年で世界も日本も大きく変化し、人々が注目するポイントも変わってきています。その変化に合わせ、番組も少しずつ変わらなければなりません。経済の話はどうしても難しいことが多くなりますが、私たちの暮らしと密接な関係があるものです。今後も、視聴者の皆さんの視点に立ち、わかりやすく役に立つ情報を伝えながら、楽しんでいただける番組を目指してまいります。新しい「モーサテ」にご期待ください。

# もっと経済。

1988年に本格的な経済ニュースとしてスタートした「WBS」（ワールドビジネスサテライト）。1998年に早朝の金融経済ニュースとしてスタートした「モーサテ」（News モーニングサテライト）。番組開始からそれぞれ、30周年、20周年を迎える2つの番組がこの4月から大幅にパワーアップしました。テレビ東京を代表する経済ニュースを支える皆さんに、リニューアルの見どころや番組づくりにかける思いを聞きました。



## 一般的なニュースから身近な話題まで 経済という視点を通して深掘りする

WBS（ワールドビジネスサテライト）は、“自分につながる世界の経済ニュース”をコンセプトに、国際的な出来事から消費や暮らしに関わる身近なニュースまで、仕事や生活に役立つ内容を意識し、様々な情報をお届けしています。

WBSの特徴は、大きな経済ニュースを深掘りするのはもちろん、社会の注目を集めている一般的なニュースも経済的な視点で取材をしているところです。企業や働く人の経済活動に絡めた、独自の切り口を大切にしています。

また大企業だけでなく、中小企業やベンチャーを取り上げているのもWBSの特徴。1998年に始まった「トレンドたまご」は最新の商品を毎日お伝えし20年にな

りますし、4月からはイノベーションを生み出そうとするベンチャー企業を取り上げる「イノベンチャーズ列伝」というコーナーもスタートしました。

放送開始30周年は多くの人たちが長年努力を続けてきた成果です。このタイミングでバトンを受けた我々は、ただ歴史をつなぐだけでなく、番組がこの先10年、20年と続くよう、少しでも加速させて次の世代につなげなければなりません。番組がより盛り上がるよう、新しいことにもどんどんチャレンジしていきますので、これからもぜひご覧いただけますと幸いです。



報道局 ニュースセンター  
WBSチーフプロデューサー 兼 経済部長  
**野口 雄史**

1990年入社。営業局を経て1998年からWBSのディレクター。2002年に「ガイアの夜明け」の番組立ち上げに参画、ディレクター&プロデューサーを務める。2015年からWBSのプロデューサー、2017年からチーフプロデューサーと経済部長も兼務に。

# 日本中に最 届けるため



編成局 アナウンス部 副部長  
News モーニングサテライトキャスター

佐々木 明子 Akiko Sasaki

1992年入社。スポーツ担当を経て2001年から報道ヘシフトし、2006年にニューヨーク支局に勤務。2014年より現在まで、「News モーニングサテライト」のメインキャスターを務める。

## 経済番組を手掛けてきた心強い仲間と 世界の情報をタイムリーに発信する

朝一番に世界のマーケット情報を速報でお届けできる点が、他にはないモーサテの強みです。日本のマーケットは世界の動きを受けて動くので、この番組を見ればその日の東京市場や、数ヵ月先の世界経済が占えるよう、世界の経済指標や中央銀行の金融政策など、判断材料となる情報をできるだけたくさん提示することを心掛けています。

また情報を発信する側としては、専門家の分析の中で何が一番大事な情報なのかを見極め、できるだけシンプルにお伝えすることも重要です。長くなりがちな話をいかにまとめ、時間内に結論に到達できるよう、手助けすることも私の役割だと思っています。ただそのためには、自分自身もブラッシュアップが必要。経済番組を担当するようになって長いですが、まだまだ勉強の毎日です。私がニューヨーク支局にいた頃、ちょうどリーマンショックが起り、アメリカの経済が崩壊していく時に、日本が巻き込まれていくのを目の当たりにしました。アメリカの影響を受け、日本人の生活や財産が一瞬にして壊されていく様を見ただけに、たとえ最後の1分になっても、新しい情報を伝えることが自

分の責務であり、この番組が日本人の生活を守るすべになればと思っています。2018年4月から新しい体制になり、かつて一緒に経済番組を手掛けてきた仲間たちが集まりました。心強い仲間と共に、より皆さんの役に立つ情報をこれからもお届けしてまいります。

ニューヨーク支局での話です。CMから放送に切り替わる時にはスタッフから声掛けがあるのですが、その日は反応がなく。床に置いてあった資料を自分で確認していたところ、カメラマンの「あぁ〜」という悲鳴が。机の下にしゃがんでいた数秒間がそのままオンエアに。ニューヨークのスタジオを空にした事件として今でも語り継がれています(笑)。





# 新の経済を に

ミスの許されない生放送の現場で  
皆様に毎日ニュースを届ける  
キャスターの二人に話を聞きました。

報道局ニュースセンター

## 大江 麻理子 Mariko Ooe

2001年入社。報道・情報・バラエティなど、さまざまな番組に出演。  
2013年から1年間ニューヨーク支局に勤務する。帰国後、2014年  
から現在まで「ワールドビジネスサテライト」のメインキャスターを担当。



## WBSチーム一丸となって 視聴者にとって有益な情報を届ける

WBSの30年の歴史の中で、視聴者の方がニュース番組に求めるものは、大きく変化してきました。スマートフォンで即時にニュースが見られる現在は、速報性にましても的確な解説が重要になっています。そのため、WBSでは新たに2人の解説キャスターを加え、より詳しい解説が聞けるニュース番組へと進化しました。この流れの中で、私自身も視聴者の方が一番知りたいことは何かを念頭に置き、番組を組み立てるよう心掛けています。特にWBSは、10代から80代以上まで、幅広い年齢層の方にご覧いただいていますので、知識のある人だけがわかる内容にならないよう、まず自分が視聴者の立場で疑問に思うことを書き出し、それに的確に答えられているかどうかを常にチェックしています。

また、見てくださる方に少しでも有益な情報をお伝えすることも私たちの使命です。以前取材先で「実はWBSで視た話に感銘を受け、この会社を立ち上げたんです」と言ってくださった方がいらっしゃいました。本当に嬉しく思いましたし、同時に責任を強く感じました。

ニュース番組はチームでなければつくれなし、また全員が同じ思いで仕事をしなければ良いものではありません。WBSは、全員が同じ方向に向かって走れる良いチームです。これからも株主様はじめ、応援して下さる皆様の期待に応えられるよう、一丸となって頑張っていきます。

プレッシャーからか、失敗する悪夢をよく見ます。つい最近も、オンエアが始まっているのにスタジオにたどり着けない夢を見ましたし、気がつけば、手元に読むべき原稿が一枚もない夢も見ます。後輩は、ニュース原稿が象形文字で書かれている夢を見たそうです(笑)。



# 1秒を刻む生放送の世界



報道局 ニュースセンター  
デスク

門田 亜希子

2001年入社。報道局報道部やニュース取材部を経て、2006年から経済ニュースを担当。2011年に報道局ニュースセンターに配属され、2015年7月から「News モーニングサテライト」のニュースデスクを担当。

＜ 専門家が持つ豊富な知識と見立てを視聴者の視点でわかりやすく解説

モーサテは毎回、金融業界からトップクラスのゲストを招いています。専門家が持っている豊富な知識を、テレビとしていかにわかりやすく伝えるかという点を意識し、番組を制作しています。ゲストの方は、素晴らしい専門知識をお持ちですが、時には専門的すぎてわかりにくい場合もあります。限られた時間の中で、どの情報をどこまで噛み砕いてお伝えするかは、毎回ゲストと激しく議論するところ。情報の取捨選択はもちろん、コメント一つとっても侃侃諤諤話し合った上で、決めています。

またその専門家についても、いろんな見立てをする方をお呼びしています。番組を毎日見ていると、昨日とは逆のこ

とを言うゲストも登場しますが、視聴者の皆さんへ考える材料を丁寧に提供するという意味では、一方からの情報ではなく幅広い意見を伝えることが重要です。投資活動における材料、また幅広く世界や日本経済の先行きについて見通す際に役に立つ様々な視点を丁寧に伝えることが私たちの責務だと思っています。

視聴者の皆さんにとって有益な情報をお伝えするため、スタッフも日々勉強しています。これからも新聞がまだ伝えない情報や、専門書では難しすぎる内容を、放送という形でわかりやすくお伝えしてまいります。

## 番組リニューアルのポイント

2018年4月には、従来のコンセプトをさらに強化、発展させるためのリニューアルを行いました。ニューヨークからの最新のマーケット情報やニュースなどのコンテンツの充実はもちろん、未来を読み解くための新企画として、産業取材の経験が豊富な、報道局解説委員大浜平太郎をキャスターに迎え、気になる企業や地域を取材する「大浜見聞録」というコーナーもスタート。また、投資のタネになる商品や技術、応援したくなるベンチャーを紹介する「ものづくりファンディング」というコーナーも立ち上げています。

## テレビ東京・BSジャパンの 経済ニュース番組 ラインナップ

テレビ東京・BSジャパンではモーサテ・WBSのほかにも様々な経済ニュースを放送しています。番組ごとに異なる多様な切り口で皆様に経済情報を届けています。

テレビ東京 月～金 夕方4時54分 ゆうがたサテライト



BSジャパン 月～金 朝5時25分 早起き日経+FT



# を支える

一秒を争う生放送の世界の裏で多くのスタッフが日々、「テレ東らしい」経済情報の伝え方に試行錯誤し、視聴者の皆様に情報を届けています。制作面でサポートをするモーサテ・WBS、それぞれの担当デスクに話を聞きました。

## そのニュースの背景を読み解き一歩踏み込んだ生の経済を伝える

WBSが大切にしているのは、視聴者の皆さんがこの番組で得た情報を、明日につなげていただくことです。他局の経済ニュースは、「こういう発表がありました」という事実の伝達がほとんどですが、既に起きたニュースは、今の時代、スマートフォンやパソコンなどでタイムリーに知ることができます。いま視聴者の皆さんが求めているのは、その情報のもう一歩先を知ることです。

たとえば発表があった一つの新商品について探っていくと、一見好調に見えるその企業が、実は海外勢に押されており、それを打開するためのチャレンジがこの新商品だったというような、背景が見えてきます。それがわかれば、今度

はその企業の営業社員に1日密着し、その背景をどう映像化して見せるかを考える。こうして経済というものの実態を、よりわかりやすくお伝えすることで、見てくださる方々が、「気づき」を得てもらえればと思っています。

4月より解説キャスターも新たに加わり、経済のより深いところをわかりやすく伝えていくことはもちろん、ストレートなニュースでは見えない部分、リアルな経済の姿をお伝えしていきます。「このニュースを、WBSはどのような切り口で伝えてくるのか」という視聴者の方々の期待を、良い意味で裏切るチャレンジを、続けていきたいと思っています。



報道局 ニュースセンター  
ニュースデスク トレたま統括  
**浅岡 基晴**

1994年入社。営業局を経て、2000年に報道局報道部へ。2006年に同局経済部へ異動し、2008年から約3年間ワシントン支局に勤務。2013年より「ワールドビジネスサテライト」のニュースデスクを担当。

## 番組リニューアルのポイント

2018年4月のリニューアルでは、日本経済新聞編集委員の滝田洋一、日経ビジネス編集委員の山川龍雄の2人を新しく解説キャスターに迎えました。新聞、雑誌、そして我々テレビの知識と経験を生かし、より独自の視点で経済を深掘りするとともに、ゲストコメンテーターと解説キャスターの複数の意見を聞くことで、視聴者の皆さんご自身が考えるきっかけになればと思っています。また、夜の時間帯にリラックスして見ていただくために、スタジオのセットやニュースのテンポなども、よりゆったりとした雰囲気を意識しています。

BSジャパン 月～金 朝7時5分 日経モーニングプラス



BSジャパン 月～金 夜10時 日経プラス10



BSジャパン 土 朝9時 日経プラス10 サタデー ニュースの疑問

